

自己点検・自己評価の公表について

学校法人 名古屋大原学園

1. 当学園における自己点検・自己評価の取り組みについて

専修学校における自己点検・自己評価は、平成19年に学校教育法及び同施行規則の改正により義務付けられることとなりましたが、本学園におきましては従前より独自の方法で評価点検とその改善に努めてまいりました。

平成27年度においても、より同法に則った項目で点検・評価を実施しましたので、ここにその結果を公表いたします。本学園における教育の現状を正しくご理解いただき、より一層のご支援を頂ければ、幸甚に存じます。

なお、自己点検・自己評価の詳細につきましては、本学園各地区各学校HP上で学校関係者評価報告書とともに自己点検・自己評価の総括表を公表するとともに、各学校内で詳細報告書を公開しています。閲覧ご希望の方は、日時をご予約のうえご来校ください。

2. 平成28年度自己点検・自己評価の結果について

本学園の教育理念を念頭に置き、分野ごとに行う専門教育を通じ、教育基本法に謳う“人格の完成”を目指し、“社会の形成者”として必要な資質を備えた身心ともに健全な学生を育成するため、すべての業務に誠意と情熱をもって対応します。

(1) 教育理念・目標

本学園では、学園の基本運営方針・教育目標・学園スローガンを定め、事業計画書等で明確に公表するとともに、職員総会ははじめ定期的に確認・点検できる場を設けています。

専門課程の目標：早期大人化教育、資格試験・公務員試験など専門教育の充実

(2) 教育活動

本学園では、変化の激しい社会ニーズに応えるため、毎年個別委員会を設置し、各事業年度の重点項目を定め、時代に即応した実践的な教育を展開できること、将来へ向けての準備を怠らないことに重点を置き、各テーマに取り組んでいます。

各校各学科とも、それぞれの分野からの人材ニーズを適切に把握し、目標人材像を定め、それに応じたカリキュラム等教育計画全体を定期的に見直しています。

教育現場においては、資格教育に留まらず、「自己管理能力」「協調行動力」など職業現場で必要とされる能力の開発など、産学連携の職業教育にも注力しています。

(3) 学生支援と教育成果

本学園は、全国展開する大原グループの一員として、授業カリキュラムから就職指導に至るまで、総合グループ校の特徴を生かすことにより、良質の教材の提供・高度な職員のスキル・全国を網羅する求人網等、学生の満足度の高い学校を実現しています。

各校ともクラス担任制で運用することにより、学生本人だけでなく父兄・出身校とも連携をしっかりと行い、よりきめ細やかな学生管理を行うことによって、国家試験の合格率や就職率など高い教育実績とともに低退学率を実現しています。

学園主導で「大原カーボンオフセットプログラム」に取り組み、各校とも学生が主導となって地域活動やボランティア活動に参加できる環境を整えています。

(4) 法令等の遵守

本学園は、会計・法律の資格指導校である特色を生かし、新制度や規定の制定に積極的に取り組んでいます。

個人情報に関しては、個人情報保護管理者を置き、法令の遵守に努めるだけでなく、詳細な学内規定『個人情報取扱規則』を策定し、全ての個人情報の取り扱いには細心の注意を払っています。

本学園は、自己点検・自己評価の実施と公表を、今後も積極的に行っていきます。

学校法人名古屋大原学園

【名古屋】

大原簿記情報医療専門学校
大原法律公務員専門学校
大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校

【岐阜】

大原簿記医療観光専門学校 岐阜校
大原法律公務員専門学校 岐阜校

【津】

大原簿記医療観光専門学校 津校
大原法律公務員専門学校 津校

【浜松】

大原簿記情報医療専門学校 浜松校
大原法律公務員専門学校 浜松校
大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校 浜松校

【静岡】

大原簿記情報医療専門学校 静岡校
大原法律公務員専門学校 静岡校
大原トラベル・ホテル・ブライダル専門学校 静岡校

【沼津】

大原公務員医療観光専門学校 沼津校
大原介護福祉専門学校 沼津校

作成者:紅林 克弘

作成日:平成29年4月30日

サンプル数(評価数値の分布合計):5

(1). 教育理念・目標

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	1	0	0
②学校における職業教育の特色は明確になっているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	1	0	0
③社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	1	0	0
④学校の理念・目的・育成人材・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	0	0	0
⑤各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	0	0	0

①課題

全体としては「適切～ほぼ適切」と評価された。

名古屋大原学園全体で「学園の基本運営方針」「学園の教育目標」「学園スローガン」を掲げ、職業もしくは実際生活に必要な専門能力・一般常識能力・社会的能力の育成に努めている。

専門課程の教育は、その教育目標を「早期大人化教育」「学科の専門教育」と定め、「精神的・経済的な独立意識と社会やクラスの形成者意識の養成」及び「資格試験に合格する能力と就職に必要な能力の養成」を目指している。

平成27年度に「④学校の理念・目的・育成人材・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか」について「やや不適切」と評価を受け、平成28年度は学生手帳の活用を通じて学生への浸透を図ってきたが、保護者若しくは、入学前の高校生、高校生の保護者にさらなる浸透を図る必要がある。

②今後の改善方策

「④学校の理念・目的・育成人材・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか」について平成28年度は保護者への周知はまだ不十分であったと判断し、平成29年度より新入生を迎えた直後に保護者ガイダンスを行い、在校生に行う教育理念・目標に関する説明と同等の啓蒙を行い、保護者への浸透を図っている。

また、外部接触の多い広報担当者には、教育理念・目標に基づく教育の成果として、在学期間中に成長した学生の様子を適宜把握したうえで外部への伝達に正確を期すことから、必要に応じ授業に参加させることとしている。

③特記事項

職業教育の特色として、資格の取得後に関連した実習を行い、知識の定着と実技能力の獲得が出来るカリキュラムを構築している。

具体的には、ホテル・ブライダル科においては、サービス介助士資格取得後に静岡市内で行われるイベントの際にボランティア活動を行い、国際ビジネス科においては、旅程管理主任者受講直後に添乗研修等がある。

業界ニーズに対応するため、訪日外国人観光客の対応を意識し、ホテル・ブライダル科では英語によるレストランでの接客対応のロールプレイング、国際ビジネス科では留学生を訪日観光客に見立てた静岡市内観光案内の実習をカリキュラムに盛り込んでいる。

2学科ともに職業実践専門課程の認定を受けており、教育課程編成委員会の外部委員との連携強化により、さらに教育内容の質の向上を目指す。

(2). 学校運営

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4	ほぼ適切…3	やや不適切…2	不適切…1
①目的等に沿った運営方針が策定されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	1	0	0
②運営方針に沿った事業計画が策定されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	1	0	0
③運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	2	0	0
④人事、給与に関する規程等は整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	2	0	0
⑤教務、財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	1	0	0
⑥業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	1	0	0
⑦教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	1	0	0
⑧情報システム化等による業務の効率化が図られているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	2	0	0

①課題

全体としては「適切～ほぼ適切」と評価された。

学校運営は、毎年一回教職員自らが事業計画を月単位で策定し、毎月その遂行状況を確認している。

また、学園・学校組織や意思決定機関も事業計画書の中で明確にされており、就業規則・給与規定等も学園諸規則が整備されている。

平成27年度に「⑥業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか」について「やや不適切」との評価があり、静岡地区で教職員全員への説明が行われ平成28年度は「適切～ほぼ適切」と評価された。

また、「⑧情報システム化等による業務の効率化が図られているか」についても「やや不適切」との評価があったが、新たな情報システムの導入予定が具体的になったため、平成28年度は「適切～ほぼ適切」と評価された。

②今後の改善方策

「③運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか」については入社3年未満の教員に対し規則等の事務手続きに複雑さを伴うものに関し、さらなる周知を図るため、毎月実施する職員会議で就業規則の章単位の読み合わせの時間を設け、同時に必要とされる書類の記入方法の確認なども行うこととする。

③特記事項

毎年一回、事業計画書を策定、月別の年間業務計画を作成し、翌月には前月の計画が遂行されているかを確認し、全体朝礼で遂行状況を発表することとしている。資格合格目標や早期内定獲得のための就職活動目標、さらには本年度に限定した重点目標として、講義スタイルの改善・発展や学生の早期大人化推進のための名古屋大原学園の独自検定の活用など多種の行動計画が盛り込まれている。

学園・学校組織及び職位は事業計画書の組織図に明記されている。学園諸規則においては意思決定機能を十分果たせる具体性を保持している。(組織は有効に機能させるため、年一回見直しを行っている。)

就業規則・給与規程・教職員採用規程等必要なものはすべて学園諸規則集に網羅されており、ネットワーク上にいつでも必要に応じて自由に閲覧できる状態になっている。

学校の特色、学科の教育目標、合格実績、卒業後の進路、教育活動や教育環境等、教育活動全般を中心に、学生への生活支援の状況、納付金・就学支援の状況等、広範にわたって過不足なく学校のHP上に公開されている。

iPadの活用と遠隔地双方向授業などがすでに実施されており、一層充実度を高めている。これにより業務の効率化が図られると共に、教育の成果も期待されている。

(3). 教育活動

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	1	0	0
②教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	1	0	0
③学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	2	0	0
④キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	1	0	0
⑤関連分野の企業・関連施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	1	0	0
⑥関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	2	3	0	0
⑦授業評価の実施・評価体制はあるか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	2	3	0	0
⑧職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	2	0	0
⑨成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	0	0	0
⑩資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	0	0	0
⑪人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	1	0	0
⑫関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	1	0	0
⑬関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研究や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	2	0	0
⑭職員の能力開発のための研修等が行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	2	2	1	0

①課題

全体としては「適切～ほぼ適切」と評価されたが、評価項目のうち「⑭職員の能力開発のための研修等が行われているか」の項目で「やや不適切」との評価意見があった。

平成27年度に「⑭職員の能力開発のための研修等が行われているか」について「やや不適切」との評価があり、平成28年度は積極的な参加を促し、一般指導力の向上については業界団体が定期的開催する教員研修会に教員を参加させることにより達成できたが、専攻分野の教員研修については平成28年度も大きな改善は見られなかった。今後は業界に関係する講演やセミナーなど幅広い視点で研修参加を検討し、業界の最新の現状を把握、研究する機会も必要である。

同時に情報リテラシーについてもOSやビジネスソフト、ビジネスアプリケーションについては本人の自助努力任せせず、研修の機会を設ける必要がある。

②今後の改善方策

「⑭職員の能力開発のための研修等が行われているか」について、平成29年度は専攻分野における教員研修に関し、カリキュラムの調整により、繁忙期であっても研修機会を逃さないように努力する。

また、観光、宿泊、ブライダルに関する講演や視察の機会があれば、県外であっても教員に参加を指示し、組織的・計画的なレベルアップを図る。

なお、平成28年度と同様、教員に対する内部研修は入社年数により段階的に実施する仕組みで継続し、教員として総合力アップを図る。

さらに段階的に実施する内部研修には情報リテラシーに関する内容も盛り込むことを検討する。

③特記事項

教育目標である「早期大人化教育」の実現のため、特に内定後教育では、「ビジネス実習」科目として入社後に必要な電話対応や接遇、PC技能の習得を授業として取り入れ、その効果測定を行い、定着度を確認している。

教育理念に基づく育成人材像について、教育課程編成委員会の開催により業界ニーズを把握し、教育課程編成の際の授業科目・授業時間に反映させている。

ホテル・ブライダル科におけるインターンシップは、毎年受入先企業より学生個別の評価以外に他校学生や過年度学生との比較など多面的な評価やアドバイスをいただき、常に改善を模索し、取り組んでいる。

教育課程編成委員会委員の意見を尊重しつつ、カリキュラムや時間割の点検を実施している。必ずしも、委員会で出た意見が採用されるわけではないが、学内において検討を加え、現在実施している内容を精査し、最善のカリキュラムとなるよう工夫をしている。

学生便覧に学科ごとの進級基準・卒業基準が明確に定められており、この基準に従って進級判定会・卒業判定会が開催され、進級と卒業の認定を行っている。また、学生便覧は入学時に全学生に学生手帳と共に交付しており、学生は絶えず持参し、必要に応じて確認することとなっている。

(4). 学修成果

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①就職率の向上が図られているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	0	0	0
②資格取得率の向上が図られているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	1	0	0
③退学率の低減が図られているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	0	0	0
④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	2	2	1	0
⑤卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	2	3	0	0

①課題

全体としては「適切～ほぼ適切」と評価されたが、評価項目のうち「④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか」で「やや不適切」との評価意見があった。

平成27年度は「③退学率の低減が図られているか」、「④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか」、「⑤卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用しているか」について「やや不適切」との評価があり、平成28年度に年4回の学生と担任教員との個人面談により退学率の軽減を図ることができた。さらに、学科の関連業界が集まる県外の合同企業ガイダンスに教員を派遣し、企業担当者より当校の教育に関する要望を聞き、カリキュラム改善の参考にすることができた。

卒業生の社会的な活躍及び評価に関しては、就職先へのアンケートの機会が少ない。このアンケートの実施により、就職先からの評価はある程度把握できているが、就職先以外の関係者評価及び卒業後のキャリア形成への効果の把握は、できていないのが現状である。

②今後の改善方策

「④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか」の卒業生の社会的な評価の把握については、従来の就職先アンケートに加え、平成29年度は教員が就職先や業界関係者が集まるガイダンスやセミナーに複数回参加し、企業の方から直接卒業生の就業に関する評価を聞き取ることに努める。

また、卒業生に対し、企業PRのための来校や講演会などの機会を作り、学内において企業側にメリットのある形で情報収集の機会を設ける。

③特記事項

当校では、日ごろから「資格の大原」「就職の大原」のスローガンのもとに、学生に対して国家資格・検定資格の取得を勧め、卒業年度2月までの就職希望者全員の就職内定を目指している。

平成28年度はホテル・ブライダル科においてレストランサービス技能検定3級(国家資格)の受験者全員合格を達成し、大きな成果を得た。本年度も受験者全員合格を目指し、指導力の研鑽に努めたい。さらに就職に関しても2学科ともに就職希望者全員が2月までに就職内定した。

また、近年は新入社員の入社後1年未満の早期離職も問題となっている。この対策として、電話対応、来客対応をはじめとするビジネスマナーを内定後教育として実践している。これにより、学生は入社直後の職場適応力を高めることが可能となり、早期離職率の減少に繋がっている。

内定後教育は採用企業からも好評で、「大原の卒業生は即戦力になる」との評価を得ることができている。

在校生の評価に関しては、高校の先生方やボランティア先から直接高い評価をいただいている。特に卒業年度生の内定後教育の一環として実施している母校訪問(出身高校訪問)については、訪問後における学生からのヒアリングの結果、学生自らが訪問し、自身の資格取得実績や就職内定に関する報告を行ったことについて、多くの出身高校の教員より感謝賞賛の声が寄せられたと把握している。

(5). 学生支援

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①進路・就職に関する支援体制は整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	0	0	0
②学生相談に関する体制は整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	0	0	0
③学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	2	2	1	0
④学生の健康管理を担う組織体制はあるか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	1	1	0
⑤課外活動に対する支援体制は整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	2	3	0	0
⑥学生の生活環境への支援は行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	2	3	0	0
⑦保護者と適切に連携しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	2	0	0
⑧卒業生への支援体制はあるか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	2	3	0	0
⑨社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	2	3	0	0
⑩高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	2	0	0

①課題

全体としては「適切～ほぼ適切」と評価されたが、評価項目のうち「③学生に対する経済的な支援体制は整備されているか」「④学生の健康管理を担う組織体制はあるか」の項目で「やや不適切」との評価意見があった。

平成27年度に「④学生の健康管理を担う組織体制はあるか」と「⑥学生の生活環境への支援は行われているか」について「やや不適切」との評価があり、平成28年度はメンタルヘルスマネジメント検定の取得により、学生のメンタルヘルス不調への気付きには着手できたが、メンタル不調への対応については教員の対応能力が不十分である。また、平成28年度に昼食販売に協力いただける企業が増え、生活環境への支援が改善された。

平成28年度に学生に対する経済的な支援として特別奨学生制度による学費の減免に加え、学費分納や卒業後延納などの間接的支援と、奨学金利用が適切に行なわれるように総務担当者が事務処理を手伝い、スムーズな手続きを支援した。しかしながら昨今の経済情勢の厳しさから学費納入が遅れがちになるケースも見受けられる。

②今後の改善方策

「③学生に対する経済的な支援体制は整備されているか」について経済的支援には様々な方法を取り入れ、入学希望者に門戸を広げてきたため、新たな支援をすぐに構築することは難しい状況である。学生の資格取得や就職をしっかりと支援し、卒業後に経済的な安定を手に入れるように今後も指導に努めたい。

「④学生の健康管理を担う組織体制はあるか」については教職員のメンタルヘルスマネジメント検定の取得によりメンタル不調時の気付きや適切な対応について知識を得たが、個別のカウンセリングについては専門的な研修を受けていないため、今後はカウンセリング手法に関し研修の企画実施を検討したい。

③特記事項

就職サポート室を設置し、就職先企業の開拓をはじめ、東京校との連携、学生・担任への求人情報の提供、学生・保護者向け就職ガイダンスの実施、学生向け面接指導等、就職に関する情報提供と相談業務を中心に活動している。

各種の学費支援制度を設けている。「資格経歴特別奨学生制度」「奨学生試験認定特別奨学生制度」「兄弟姉妹等特別奨学生制度」「海外研修旅行支援制度」のほか、公的な支援制度としての「日本学生支援機構奨学金制度」を設けており、入学生の利用頻度も高いものがある。

年一回の6地区合同のスポーツフェスティバルの開催や地区ごとのクラブサークル活動の支援、障害者エスコートサービスを主体としたボランティアとしての「大道芸ワールドカップin静岡」への参加などに対し、積極的な支援を行っている。

市内の農業高校と連携し、高校生の放課後の時間帯を活用し、「サービス接遇講座」「レストランサービス技能講座」を開催しており、毎年、高校生が受講している。

(6). 教育環境

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	2	2	1	0
②学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	1	3	1	0
③防災に対する体制は整備されているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	2	0	0

①課題

全体として「適切～ほぼ適切」と評価されたが、「①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか」「②学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか」の項目で「やや不適切」との評価意見があった。

平成27年度は「①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか」「②学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか」について「やや不適切」との評価があり、平成28年度に図書コーナーの設置や震災等に対する対策として飛散防止フィルムの貼付けが改善方法として挙げられた。

図書コーナーは設置されたが、飛散防止フィルムの設置は実施できておらず、平成29年度も継続課題とする。

教室(通常教室)については十分な学習環境を整えているが、PCについては購入後の年数が経過し買い替えの時期が近づいている。また、実習施設としてブライダル関係のドレスフィティングやパウダールームなど実践的に使える施設が整備されていない。

②今後の改善方策

平成27年度から課題とされる飛散防止フィルムについては、静岡地区2校と協議して平成29年度に施工を完了したいが、施設運営計画にも関係するため努力目標としたい。

「①施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか」のPCについては全ての買い替えは予算的に難しい面もあるため、高性能部品への交換などメンテナンスにより性能維持を図る。実習施設の改装は静岡地区全体の施設運営計画にも関係するため、長期的視野で検討する。

③特記事項

各HR教室のほかにも、国際ビジネス科で使用する遠隔地双方向授業教室やPC室、ホテル・ブライダル科で使用するバンケットルームを設置している。また、iPadを活用したプレゼンテーションやペーパーレスの授業に取り組んでおり、全館で無線LANを使用できる環境が整っている。

ホテル・ブライダル科では従来よりインターンシップを実施しており、毎年実習先企業の責任者がその年の開始前に来校し、複数回にわたって事前打ち合わせを行ったうえでその年の開始している。また、当校教員が実習先企業を訪問し責任者や教育担当者と面談し、さらに学生全員に対して個人面接を実施、実習上の課題等の聞き取りを行っている。この聞き取り調査をもとに学生への助言を行うとともに、課題検討材料として、次年度実施に向けた改善と工夫を行っている。

防災設備の年2回の点検は専門業者に委託し、その結果を消防署等へ届け出ている。また、職員に対する防災訓練を年1回実施しており、消防設備の使用の確認している。学生に対しては入学直後に避難場所・避難経路の確認を行ない、卒業年次にも同様に避難場所・避難経路の確認を行っている。震災等に備えて毛布、食糧、飲料水の備蓄にしており、今後もこの充実を図る。

(7). 学生の受入れ募集

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①学生募集活動は、適正に行われているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	5	0	0	0
②学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	1	0	0
③学納金は妥当なものとなっているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	1	0	0

①課題

全体として「適切～ほぼ適切」と評価された。

②今後の改善方策

学生募集活動は広報営業室を中心に学校案内の作成・学校説明会での告知等、常に適正な説明・対応を心掛けており、現に適正に行われているものと思われる。提供する情報を常に最新のものとし、高校生及び保護者に対し正しい情報提供に努める。

また、学納金についても妥当な額であると思われる。

③特記事項

毎年、3月末までに募集要項を含む総合パンフレットを完成させ、新年度の募集活動を開始している。募集要項には設置学科コース、入学方法、出願手続き、学費、学費支援制度等、出願に必要な項目を漏れなく、詳細に記載している。募集活動も広報営業室スタッフを中心に教職員も一体となって、学校説明会・体験入学会を実施している。高校訪問を通じた広報活動も1年間コンスタントに行い、高校生や進路指導課の教員へ説明を詳細に実施するようにしている。

総合パンフレットにおいて、在学中に取得した国家資格・検定資格をその試験別に分類し、合格した全学生の氏名を記載、公表している。また、就職実績については、学生個人別に就職先企業名を明示し、今後入学を予定している学生の就職先理解に役立てている。

募集要項には入学金・研修教材費・授業料・維持費別の金額を明示し、さらに納入する時期と納入方法を明確にして表示している。納入方法については各家庭の経済事情により選択できる仕組みになっており、家計の負担を軽

(8). 財務

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
①中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	5	0	0	0
②予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	5	0	0	0
③財務について会計監査が適切に行われているか	5	0	0	0
④財務情報公開の体制整備はできているか	5	0	0	0

①課題

全体として「適切～ほぼ適切」と評価された。

②今後の改善方策

財務内容については現状これといった問題はなく、会計監査についても適正に行われている。

③特記事項

継続的に財務基盤の安定性を保つためには、更なる学生数の確保と業務の効率化による人件費・経費の縮小に努める必要がある。

予算収支については新年度の事業計画を反映した資金収支予算・消費収支予算が組まれており、理事会・評議員会等での必要な手続きを経て新年度の事業計画や予算が承認されている。

財務情報ははじめとする学校情報は学校HP上に公開しており、いつでも閲覧できる状況になっている。

(9). 法令等の遵守

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	4	1	0	0
②個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	2	0	0
③自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	2	0	0
④自己評価結果を公開しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	2	0	0

①課題

全体として「適切～ほぼ適切」と評価された。

②今後の改善方策

学園全体で関係諸法令の遵守に努めており、適正な学校運営がなされている。
また、自己点検・自己評価の実施も行っており、その結果についてもHPにて公表している。

③特記事項

毎年3月末時点で在籍の教職員を対象に自己点検評価を実施している。この結果を基に学校長が自己評価の総括表を作成し、続いて学校関係者評価委員会を開催、学校関係者評価実施報告書を取りまとめ、自己評価書とともに学校のHP上に公表することとしている。

評価項目において「2＝やや不適切」「1＝不適切」の評価があった場合には問題点を明確にした上で、その改善を実施していく予定である。

(10). 社会貢献・地域貢献

評価項目	評価数値の分布			
	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1			
①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	2	1	2	0
②学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	2	0	0
③地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	適切	ほぼ適切	やや不適切	不適切
	3	2	0	0

①課題

全体として「適切～ほぼ適切」と評価されたが「①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか」について「やや不適切」の評価があった。

平成27年度に「①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか」について「やや不適切」の評価があり、平成28年度は地域自治体の観光関連部門の担当者との意見交換を行い地域貢献企画の提案を行った。地域自治体の予算の都合もあり実施には至らなかったが、今後も情報交換や協力していくことが確認できた。

静岡市内の日本語学校と協力し、留学生との交流会を年2回実施している。また、「大道芸ワールドカップin静岡」でもボランティア活動を継続しているが、地域貢献を進めるための地域自治体や他の教育機関との連携が限定的である。

②今後の改善方策

「①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか」については学園生活を通してボランティア活動の意義を説き、活動を奨励、支援する。

また、本年度は地域自治体に加え、教育機関にも当校を積極的に紹介し、社会や地域貢献についてのニーズを探る。その上で実習としてカリキュラムに組み込むことを検討をする。継続的に実施できるものを模索し、次年度は何らかの形で実現したい。

③特記事項

学校の教育資源や教育施設を利用した社会貢献の一環として、様々な公共職業訓練講座を受託し実施しており、離職者や高齢者の再就職のための知識や技術の習得に貢献している。

また、企業や一般を対象とした公開講座として「サービス介助士講習会」の実施、高校生を対象とした「レストランサービス技術講習会」や「サービス接遇対策講座」も開設している。

年一回、11月初旬に静岡市で行われる「大道芸ワールドカップ in 静岡」に高齢者や障害者のエスコートスタッフとして参加し、昨年度まで12年間、大会運営のノーマライゼーションに貢献している。